

生徒指導部だより 新舞鶴っ子の風



令和5年1月31日(火)発行

舞鶴市立新舞鶴小学校

11月7日～12月9日まで、いじめ対策強化月間の取り組みとして、いじめに関わる人権学習を行ったり、今年度2回目のいじめアンケートを実施したりしました。教師から「にじいろのはな」の読み聞かせをした後、校長先生から「思いやりの大切さ」の話を聞きました。子どもたちは、思いやりについて考え、行動に移すことを意識しながら過ごしました。

第2回目のいじめアンケートの結果は、下記のようになっています。9月から12月までを振り返り、子どもたちがアンケートに記入していたすべての件数をあげています。

認知の総人数・・・48人 件数・・・63件（今年度1回目：78件）		
項 目		件 数
1	冷やかしからかい、悪口やおどし文句、嫌なことを言われる。	29
2	仲間はずれ、集団による無視をされる。	3
3	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	25
4	ひどくぶたれたり、叩かれたり、蹴られたりする。	0
5	金品をたかられる。	0
6	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	2
7	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	3
8	パソコンや携帯電話で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	1
9	その他	0

この認知のうち

A(要指導)・・・いじめに係る行為が止んでいない状態	0
B(要支援)・・・いじめに係る行為が止んでいるが、心身の苦痛を感じている状態	0
C(見守り)・・・いじめに係る行為が止んでおり、心身の苦痛を感じていないが、3か月が経過していない状態	63
D(解 消)・・・いじめに係る行為が止んでおり、心身の苦痛を感じておらず、3か月を経過している状態	

アンケート後には個別に面談し、いじめ等で困っていることを聞き取り、解消に向けて組織的に取り組んでいます。認知件数で最も多かったのが、「冷やかしからかい」であり、本校では、「きゅうり」「じゃがいも」等の悪口、「くそ」や「遅い」等の暴言等、言葉遣いに関する内容が多かったです。児童たちが回答した内容については、その後3か月間経過を観察し、嫌なことが続いていなければ解消と捉えます。今回の調査で明らかになった事象は、1件1件丁寧に関わり、解消に向けて全力で取り組みます。

いじめは、決して許されない深刻で重大な人権侵害ですが、どの学校でも、どの子どもにも起こり得るものです。今後も、アンケートで把握したものに加えて、担任をはじめとする全職員が子どもたちの日常の様子に目を配り、気になることには迅速に対応していきます。ご家庭でもお子様の様子で心配なことがありましたら、担任またはいじめ防止対策担当（山内）までご連絡ください。

いじめの早期発見・早期対応を目指して

- いじめ問題に対する教職員の共通理解のもと、「小さな兆候やサインを見逃さない」という視点に立って、学校として組織的に取り組む。
- 人権について考えさせたり、相手の立場に立って考えさせたりする教育活動を通して、思いやりの心や正義感を育てる取り組みを充実させる。
- いじめ解決のために、保護者や地域社会、関係機関との連携を大切にした取り組みを行う。